

1 校内研修に取り入れてみよう

参加型の校内研修は、個々の意見を取り上げていくことが容易で、教職員の研修意欲を高める方法の一つです。時期や目的に応じて選択し、組み合わせながら実施しましょう。

① 雰囲気づくりをする

アイスブレイキング

アイスブレイキングとは、参加者の緊張を解き、相互理解を促すことで、研修への積極的な参加に向けた準備をするための手法です。簡単にできて楽しめる協同作業をやってみましょう。

他にも、相手をほめたり体を動かしたりなど、いろいろ考えられます。目的や場面に応じたものを臨機応変に取り入れてみましょう。

話しやすい雰囲気をつくる例 「1分間伝言ゲーム」

おすすめ方

- ① 二人組になり、話し手・聞き手を決める。
- ② 話し手は、好きな物・事（食べ物、旅先、本、音楽等）について1分間で紹介する。聞き手は声を出さずに共感的に聞く。
- ③ 1分間たったなら聞き手が内容を要約して話し手にフィードバックする。
- ④ 聞き手と話し手が入れ替わって同じことを行う。



ポイント

- ・聞き手…相づちを打ちながら聞く。話を遮らない。話しやすい雰囲気をつくる。
- ・話し手…時間に合わせて分かりやすく伝える。相手が聞きたくなる話を考える。
- ・双方…伝え合うための二人の協同作業を行う。感想を相手に伝える。

② 考えを引き出し整理する

ウェビング

ウェビングとは、キーワードを1つ設定し、思いつく言葉を書き出しながら次々とつないでいく手法です。「連想ゲーム」のように、参加者同士がアイデアを広げていくのに有効です。

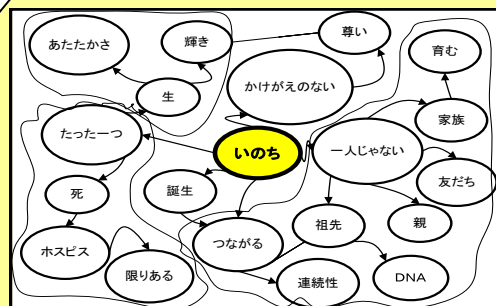
おすすめ方

- ① 研修の「キーワード」を決める。
- ② グループに分かれ、①のキーワードを中心に思いつく言葉をつないでどんどん書き出す。
- ③ 出された考えを色分けしたり、枠で囲ったりする。
- ④ アイデアを整理し、具体的な取組方法を考えていく。

多くの考えを引き出すために



考えをまとめるために



右上の写真は、1年間の研究を振り返る研修で、研究テーマを見直している様子です。「いのち」をキーワードに次年度の道徳教育の視点を出し合っています。

ブレインライティング

ブレインライティングとは、アイデアをシートに書き込みながら、順次まわしていく手法です。グループの他のメンバーの発想をヒントにするので、より考えが広がったり深まったりするよさがあり、発言が得意ではない場合に有効です。

おすすめ方

- ①テーマを設定し、6人グループになる。
- ②テーマにしたがって、アイデアを3つ考え、シートに記入する。
- ③5分ったら、自分の左の参加者にシートを渡す。
- ④回ってきたシートの2番目の欄に、前の人記入した内容を読んで連想したアイデアを、5分間で3つ書く。
- ⑤シートが埋まるまで繰り返す。

発散思考

(3つのアイデア×6回)×6人=108のアイデア

収束思考

出てきたアイデアを、協議しながら整理したり優先順位をつけたりする。

平成22年2月1日実施の東部教育局ワークショップで、国の中央研修参加者から紹介された手法です。

テーマ			
	A案	B案	C案
1			
2	付箋紙に書いて貼ると、次のステップで整理するときに活用しやすくなります。		
3			
4	<ul style="list-style-type: none"> ■人の考えを批判しない ■予算等気にせず自由に考える ■前の人の考えをふまえて考えてもよい ■質より量が大切 		
5			
6			

KJ法

KJ法とは、共通の課題・テーマに向けてさまざまな情報を整理し、相互に関連付けながら、新たな発見を生み出す時に有効です。協同作業をすることで仲間づくりの効果も期待できます。

おすすめ方

- ①共通の課題・テーマに対して、個人の考えをカード（付箋紙）に書く。

カードに書くときに

文字は大きく短文で

1枚のカードに内容は1つ

KJ法活用

- ・色やカードに書く方向を事前に決めておく。
 - ・1枚のカードに一つの事柄（短文）を書く。
- ②書いた事柄を模造紙等に貼る。
 - ・1人がカードを模造紙上に貼り、その事柄についてコメントをする。
 - ・同じ意見は近い場所に貼っていく。
 - ③全員貼り終わったら、グループ分けする。
 - ④事柄ごとに線で囲み、見出しをつける。
 - ・線や見出しの色を工夫する。
 - ⑤関連する内容を矢印で示したり、類似の見出しをまとめて囲んだりして、大きな見出しをつける。
 - ⑥構造化された課題を踏まえ、解決策を考える。

よかった点

共通理解して取り組みたいこと

課題と解決策

指導案を模造紙の大きさまで印刷し、指導案の中に付箋紙を貼ってもよいでしょう。

「こんなこと書いていいのかな？」と思わないで、自分の意見を書いていきましょう。

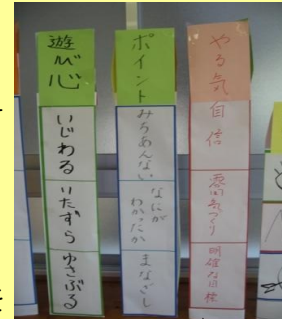


ポスターセッション

ポスターセッションとは、グループの協議内容を簡潔にまとめ、キーワードをもとに具体的な取組等を考えてポスターを作成し、発表を聞き合う研修方法です。視覚的に捉えやすく、研修後も確認事項を意識できるなどのメリットがあります。

おすすめ方

- ①解決すべき課題についてグループ協議を行う。
- ②付箋紙をホワイトボード等に貼り、アイデアをグループ分けし、キーワードを考える。
- ③模造紙を折って三角柱を作る。(縦長、横長どちらでも可)
- ④三角柱の各面に一つずつキーワードを記入する。
(絵やイラストなど工夫してもよい。)
- ⑤キーワードに対応するアイデアや意見等を記入した付箋紙を貼り付ける。
- ⑥班ごとに三角柱に貼られた付箋紙をもとに、解決案等を発表する。



各グループの発表を全員が聞いたり、参加者が興味のあるグループを選んで聞きに行くという方法もあります。

ポスターセッションの特徴

- ①討議の内容を焦点化しやすい。
- ②聞き手が理解しやすい。
- ③短時間で結果を共有できる。
- ④研究会後もタワーを残すことで、発表事項を意識できる。

概念化シート

概念化シートとは、気づきを構造化してとらえ、整理していくために用いる振り返りワークシートの一種です。シートを、縦横2軸によって4象限に仕切ります。

おすすめ方

構造化してとらえよう

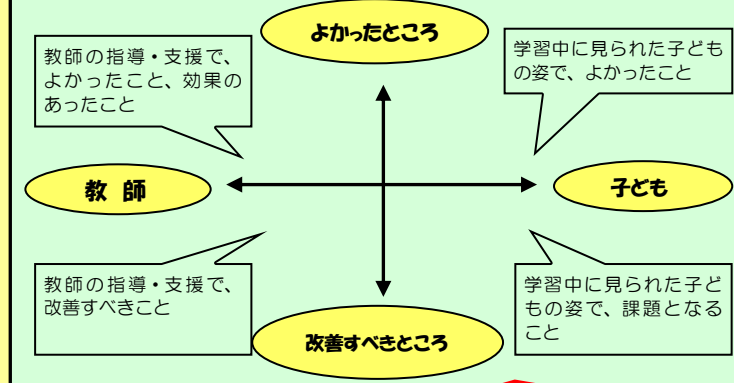
- ②付箋紙の内容を吟味することを通して、他の先生の思いや願いを知り、お互いの学びを深め合うことができます。



- ①付箋紙に書き込んだ気づきや考えを4象限上に整理していくことで、成果や課題がとらえやすくなり、課題解決のための方向性や目標が共有できます。

概念化シートの例

思考力・表現力を育てるために



- ③課題を明確にするだけでなく、その具体的な解決策を考えていく研修を次に設定しましょう。

マトリクス法

マトリクス法は、ある程度の意見やアイデアが出された後、条件を2つの視点から段階的に組み合わせて考えることで、さらに具体的な意見を出し合ったり、話し合いを深めたりする時に有効です。

おすすめ方

現状分析にも課題解決にも使えます！

- ①テーマを決定する。
例：学習規律を定着させるための現状分析
- ②2つの視点を決定する。
例：規律…授業中のいろいろな規律
例：教科…教科等をリストアップ
- ③マトリクス図を作成する。
- ④マス目ごとに現状分析をする。
例：授業中に学習規律が乱れている点について列挙する。

	規律	挨拶	発表	聞く姿勢
教科				
国語				
算数				
体育				
音楽				

⑤分析の難しいマス目が出てくることも考えられるが、視点を決めて、より細かい現状分析を行うことで、課題が明確になり、具体的な課題解決のためのアイデアを協議する研修へとつながっていく。

SWOT分析

SWOT分析は、学校組織マネジメント研修でよく取り上げられる研修方法です。学校の内部環境と外部環境の2つの軸で、プラス面とマイナス面のマトリクスを作り、自校のめざすべき姿と重ね合わせることで、多様な観点から特色ある学校づくりを生み出すことをねらいとしています。

(例)

学校経営においては、内部環境（学校規模、生徒の実態、教職員の特性等）と、外部環境（地域の環境、教育行政、関係機関等）において、強み、弱み、機会、脅威の4つのマトリクスを作って現状分析を行い、今後の方策を考察する方法です。

マイナス面に目がいきがちですが、プラス面を生かす発想が大切です。

	内部環境要因	外部環境要因
プラス面	強み ・大規模な生徒数 ・個性ある教職員 ・広い多目的ホール ・図書室の充実	機会 ・多くの社会的施設 ・交通の至便 ・学校支援ネットワークの充実 ・大きな自然公園
マイナス面	弱み ・複雑な家庭環境 ・不登校生徒の増加 ・教職員の人間関係の希薄化	脅威 ・核家族が多い ・地域の連帯感が希薄 ・人口の流出入が激しい ・娯楽施設が多い

③体験する

模擬授業

模擬授業とは、教員を児童生徒に見立て、検討した指導案に沿って実際に授業を行い、改善を図る研修方法です。指導案上で考えていた内容をそれぞれの役割で体験することで、「答えにくい」「分かりにくい」など、改善のポイントを体感していくことができます。

おすすめ方

- ①当日の研究授業者が、作成した指導案に沿って授業を行う。
- ②他の参加者は児童生徒役になって、指導者の発問に対し、児童生徒の予想される反応を考えながら発言する。
- ③模擬授業後（または模擬授業中）、参加者は、分かりにくかった発問や気が付いたこと等を発表する。
- ④授業者は、実際に発問してみてもやりにくかったこと等について発表する。
※指導者の発問や動きなど
- ⑤協議を通してよりよい発問を考える。
※改善指導等について、再度模擬授業を行う

全体を通して模擬授業を行う時間がない場合は、中心となる発問の部分のみ行うと、協議を焦点化することができます。複数回模擬授業を行うと、議論が深まります。



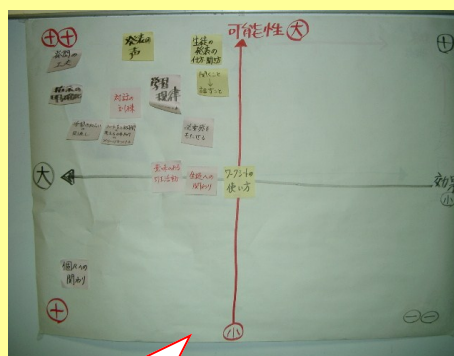
④具体的な対応策を考える

実践化シート

実践化シートは、他の演習や活動で出された意見やアイデアを整理し、その内容と効果の大小等で視点を明確にし、さまざまな改善策に順位をつけることにより、実現の可能性を構造化していくシートです。

おすすめ方

- ①グループ演習等で課題を明らかにする。
- ②課題に対する解決策や改善策をグループごとに2～3つ発表する。
- ③2つの視点でスケールをつけたシートを作る。
例：効果が大きい←→効果が小さい
：取組が容易←→取組が困難
：即効性←→遅効性
- ④具体的に実践できる取組に順位をつける。



意見やアイデアをしぼったあとは、いつまでにだれがどのように実行していくか、進捗状況はどうチェックするか、具体的にスケジュールを立てておきましょう。

グループ研修で出された意見をそのまましておくのではなく、実践可能な順位を付けてみることで、翌日からの取組が具体的に見えてきます。

実践を振り返り授業改善につなげる研修

ねらい

- 研究テーマに基づく授業実践を振り返り、多面的な成果と課題の分析ができる。
- いろいろな視点から改善策を見だし、今後の実践につなげることができる。

具体的なすすめかた

(1) 研修についての説明 (5分)

(2) 1学期の授業研究会の振り返りと課題の確認 (15分)

(3) グループ協議 (60分)

振り返りワークシート (概念化シート) による成果と課題の明確化

- A 実践をしてよかった点、効果があったと思われること
- B 困っていること、悩んでいること、よく分からないこと

① A、Bについて各自で実践を振り返り付箋紙に記入する。

- A→青色の付箋紙
- B→黄色の付箋紙

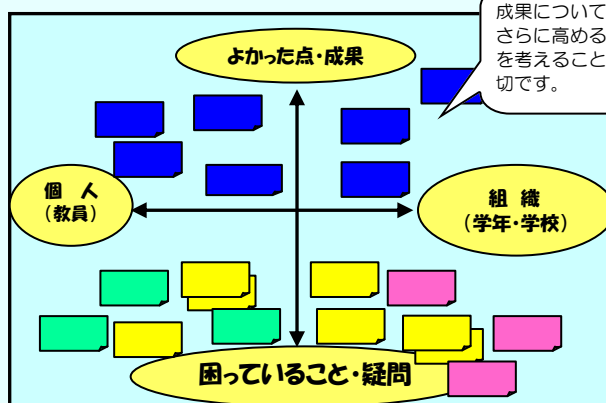


(例) 国語科における表現力の育成

② 付箋紙に書いたものをシートに貼り、グループピングして小見出しをつける。(KJ法)

③ 貼り出されたものを見て、改善策を考え付箋紙に記入する。

- 個人でできる→緑色の付箋紙
- 組織で取り組む→桃色の付箋紙



④ 実践上の成果と課題を明確にし、付箋紙を貼りながら改善策について話し合う。

(4) グループ発表 (30分)

- 各グループの代表者が、(3)で作成したシートを示しながら、共有したことを中心に発表する。



(5) まとめ (10分)

- 各グループから出た改善策をもとに、今後の取組の方向性を確認する。

KJ法を活用した授業改善のための研修

ねらい

- KJ法を活用することで、参加者全員の意見やアイデアを出し合うことができる。
- 次回の研究会までの取組の方向性を考えることができる。

研修の流れ

- (1) 研究会についての説明 (5分)
- (2) 自評 (5分)
- (3) KJ法を活用したグループ協議 (45分)
- (4) グループ発表 (15分)
- (5) まとめ (30分)

(100分)

時間配分は実態に応じて変えましょう。

事前準備

- ①授業参観の視点
 - 研究内容を踏まえ、視点を明確にしておく。
- ②グループ分け
 - リーダーはグループで決める。
- ③グループでの教材研究
 - 研究の視点に沿った内容を考えながら教材研究をする。

用意するもの

- ・模造紙 (中央に指導案を貼る)
(各グループに1枚)
- ・色マジック (数種類)
- ・付箋紙 (桃色・黄色)
- ・アンケート用紙

グループの発表後、その内容を整理し、各自が翌日から実践する重点事項や、次回の研究会までに研究実践しておく視点など、今後の方向性を共通理解することが大切です。特に講師を招いている場合は、まとめと指導助言の時間配分について打ち合わせをしておきましょう。

授業参観の視点や協議の柱にあわせて、2色程度の付箋紙を用意するのが効果的です。

具体的なすすめかた

(1) 研究会についての説明 (5分)

- 研修のねらい、本時の研究の視点、グループ協議の方法について説明する。

研究会の雰囲気づくりをするとともに、意欲を高める説明を心がけましょう。

(2) 自評 (5分)

- 研究の視点に沿って、本時の学習について話をする。

評価規準をもとにして、児童生徒の実態を話しましょう。自らの課題や疑問も話してみましょう。

(3) KJ法を活用したグループ協議 (45分)

- ①研究の視点に照らして、よかった点(桃色)、課題となる点(黄色)を付箋紙に書く。
- ②1人が付箋紙を模造紙上に貼り、その内容についてコメントをする。課題に対しては、解決策を話し合いながら貼っていく。
- ③次の人も同じように付箋紙を貼っていく。同じ意見は、その内容の近くに貼る。
- ④全員貼り終わったら、内容ごとに線で囲み、見出しをつける。
- ⑤関連する内容を矢印で示したり、類似の見出しをまとめて囲んだりして、大きな見出しをつける。
- ⑥最後に、次回までに共通理解して取り組みたいことを1~2点書き出す。

KJ法活用



よかった点

共通理解して取り組みたいこと

課題と解決策

指導案を模造紙の大きさまで印刷し、指導案の中に付箋紙を貼ってもよいでしょう。

(4) グループ発表 (15分)

- ①各グループの代表者が、5分以内で、評価規準に照らした児童生徒の実態、教師の指導・支援等、協議した内容を発表する。
- ②次回までに全員で共通理解して取り組みたいことを、理由も含めて発表する。

黒板またはホワイトボード利用の発表



共通点だけでなく、異なった点も大事にして、各グループの話聞きましょう。

(5) まとめ (30分)

- ①グループから出た**よかった点**を確認し合い、**次回までに取り組む内容**を全員で話し合う。本時の学習だけでなく、できるかぎり自分がかかわっている児童生徒の実態も含めて決定する。

話し合いがまとまらない時は、近日中に研究グループで協議するようにしましょう。

- ②外部から講師を招いている場合、授業や協議内容について助言をもらおうと、共通理解が図れる。
- ③アンケート(振り返り)



- 全員が意見を出し合い、まとめ方を工夫して視覚的に分かるようにしましょう。
- 共通の課題まで話し合いを進めることができるよう、時間設定の工夫や時間厳守の進行が大切です。
- 今まで取り組んでよかったことは認め合い、児童生徒の変容を確認することで、新たな意欲がわきます。

E

次回までの取組内容を考えるための研修

ねらい

- 異なった協議方法を活用し、多様な意見やアイデアを出し合うことができる。
- 次回の研究会までの取組内容を話し合い、全員が共通理解することができる。

具体的なすすめかた

(1) 研究会についての説明 (5分)

○ 研修のねらい、本時の研究の視点、グループ協議の方法について説明する。

(2) 自評 (5分)

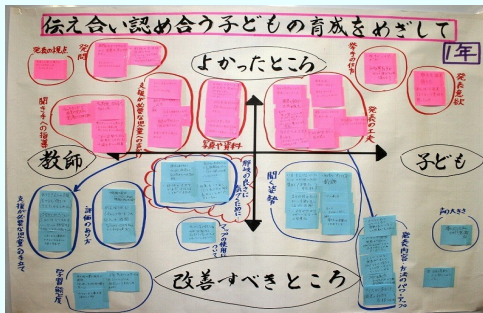
○ 研究の視点に沿って、本時の学習について話をする。

(3) 研究授業についてのグループ協議 (40分)

○ グループで種類の違うシートを活用し、研究の視点に沿って、本時の学習について協議する。

Aグループ ～概念化シート活用～

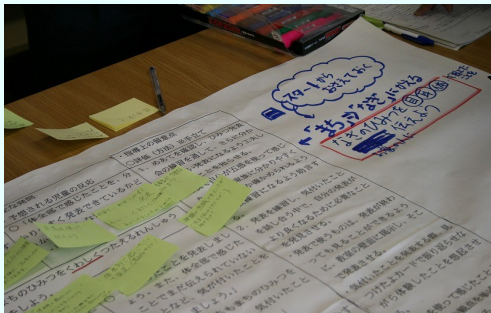
- ・ 付箋紙に書き込んだ気付きや考えを4象限上で整理し、見出しをつける。
縦軸→よかったところ、改善すべきところ
横軸→教師、子ども



課題や成果が明確になってきたところで、次回までにどのようなことを具体的に取り組んでいくのか、優先順位を決めて話し合ってください。

Bグループ ～指導案活用～

- ・ 付箋紙に書き込んだ気付きや考えを指導案上で整理し、ねらいにせまるための教材の準備、発問、評価等、指導・支援の在り方を協議する。



導入・展開・まとめの指導過程に沿って振り返ることで、児童生徒の意識の流れや変容等について協議でき、個々の指導に生かすことができます。次回の指導案の書き方も協議するとよいでしょう。

(4) グループ発表 (10分)

○各グループの代表者が、研究の視点に沿って、児童生徒の実態、教師の指導・支援について発表する。

グループごとに活用するシートが違うので、活用したシートの特徴や良さ等の紹介も含めて発表すると、次回の研究会への意欲につながります。



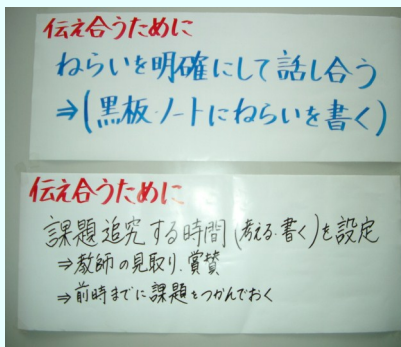
(5) 次回までの取組内容についての協議 (30分)

○2グループから出た意見をもとに、全員が次回までに取り組む具体的な内容について協議する。

パターン1

グループで協議

Aグループ



Bグループ

次回までの取組内容

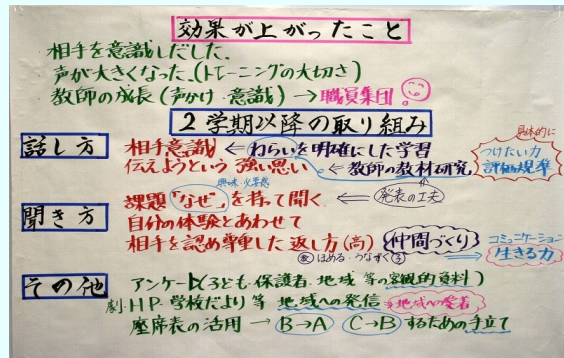
研究授業だけでなく、個々の実践について情報交換したり、翌日から取り組むことを、**全員参画**によって考えることが大切です。

1つに絞りきれないときは、共通理解のもとで、優先順位を決めて取り組むことも考えられます。

パターン2

全体で協議

○1学期の取組の成果を大事にして、2学期の取組を協議する。



学校教育目標や研究テーマに沿って、児童生徒のめざす姿に近づくような具体的な取組を考えましょう。

(6) まとめ・振り返りシート (10分)

○次回までに取り組む内容を全員で確認し合う。
○アンケート(振り返り)

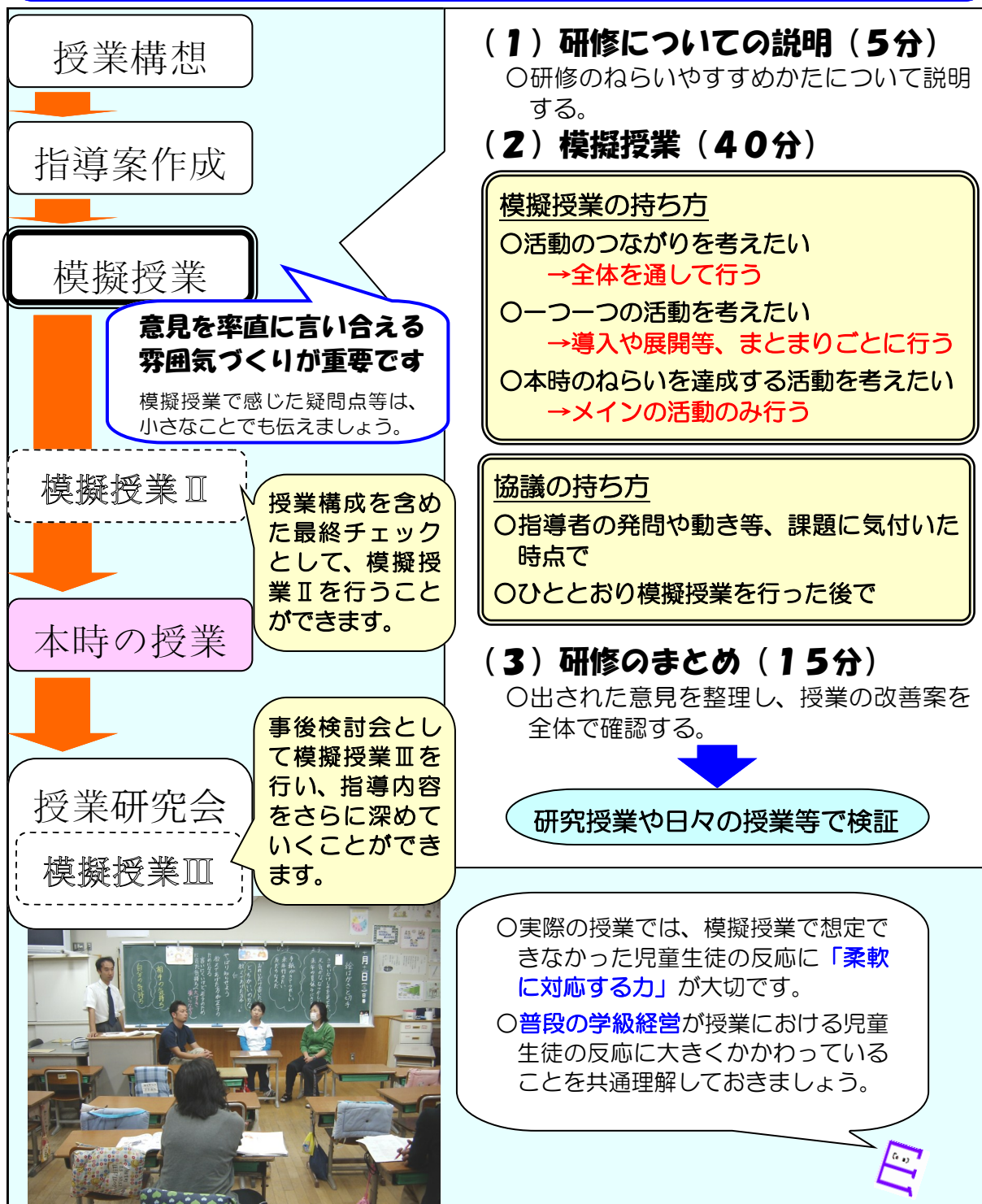
研修でまとめたシートを職員室等に掲示しておく、共通理解した内容を日々振り返ることができます。

模擬授業を通じた授業改善のための研修

ねらい

- 具体的な授業場面を想定し、授業展開や発問の検討を行うことができる。
- 授業場面にかかわる協議を通して、個々の教師の指導力向上を図ることができる。

具体的なすすめかた



機器を活用した授業改善のための研修

ねらい

- 授業実践ビデオ・DVDを視聴・分析することで、指導法を学ぶことができる。
- 授業分析のプレゼンを工夫することで、効果的な表現方法を学ぶことができる。

具体的なすすめかた

(1) 研修についての説明 (5分)

- ・ 複数教科の授業実践のビデオ等を選定する。
- ・ 事前に視聴したい授業実践の希望を聞き、グループ分けをする。
- ・ 各グループのプレゼン方法を決定しておく。

(2) すぐれた授業実践ビデオ・DVD視聴 (50分)

(3) 視聴した授業実践の分析 (30分)

○他のグループに伝えたい参考となる指導法について、グループごとに話し合いまとめる。

(4) グループ発表 (25分)

いろいろなプレゼン方法の特徴を生かし、わかりやすく伝えましょう。



ホワイトボード利用

キーワードを厚紙で覆い、効果的に示しながら発表



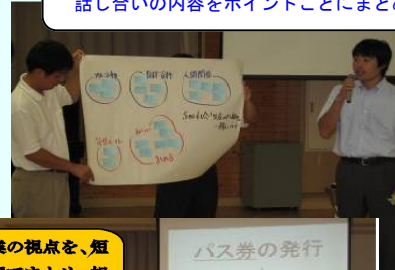
学んだ学習方法を、仲間伝える
模擬授業発表

模擬授業スタイル

学んだ学習方法を授業体験にして発表

KJ法活用

話し合いの内容をポイントごとにまとめて発表



授業の視点を、短時間でまとめ、相手に伝える



パワーポイント利用

伝えたい内容をキーワードで示しながら発表

(5) まとめ (10分)

○アンケート (振り返り)



役に立つ指導法と効果的なプレゼンについて学べる一石二鳥の研修です。夏季研修などでまとまった時間を設定し、さまざまな授業実践を視聴して全員で共有することもできます。

(アンケート項目例)

- ・ 印象に残ったグループはどれですか？
- ・ 今後、自分の授業で活用するとしたら、どのグループの方法を採用しますか？
- ・ 発表を聞いて、今後視聴してみたいと思ったビデオ・DVDはどれですか？
- ・ 今後の自分の授業に生かせるものがありましたか？